実 践 報 告

少子高齢化や単身世帯の増加などが進み、人々が抱える困りごとが複雑化する中にあっても、地域では「支援する」「支援される」の垣根を越えた“横浜らしい支えあい活動”が育まれています。

横浜市内で行われている実践を通して、地域住民・団体・企業等の多様な主体が連携することによる可能性の広がりや、みんなが役割や生きがいをもってつながりの中で暮らす大切さを共有し、「誰もが『その人らしさ』を発揮できる地域づくり」について考えます。

◆ 安心して買い物できる！ 【神奈川区】

～移動支援の中でICTを活用した見守り～

- 中丸買い物支援（移動支援）ネットワーク

◆ 障害がある人もない人も、誰もが地域の一員に 【旭区】

- 白根みらい食堂
- 不動丸ファーム
- 白根地域ケアプラザ
- 旭区社会福祉協議会

コーディネーター

同志社大学 社会学部社会福祉学科

教授 永田 祐 氏

専門は地域福祉ほか。立教大学、愛知淑徳大学、日本福祉大学の講師等を経て現在に至る。

「志」のある実践者同士が出合い、つながり、つくりだす地域での様々な活動やそれを可能にするための仕組みづくり、市町村を中心とした「困っている人」を真ん中においた支援の仕組みづくりについて研究している。

また、社会福祉士として、成年後見など、権利擁護の活動にもかかわっている。

第10回よこはま地域福祉フォーラム

実践報告　講師資料

「支援する・される」の垣根を超えた多様な主体の支え合いを考える

同志社大学　社会学部社会福祉学科

教授　永田　祐 氏

「支援する・される」の垣根を超えた多様な主体の支え合いを考える

令和7年度　よこはま地域福祉フォーラム

同志社大学　永田祐

地域社会の未来

人口や地域社会の動向を踏まえ、これからの地域社会の姿を考えます。

人口の変化

少子高齢化の進展

◆将来人口推計

（2015年）　（2065年）

前回推計では、8000万人台でした

- 日本の総人口

1億2,709万人 → 9,159万人

- 老年人口(65歳以上)

3,346.5万人 → 3,513万人

(26.6%)　(38.3%)

- 生産年齢人口(15～64歳)

7,628.8万人 → 4,809万人

(60.7%)　(52.5%)

- 年少人口(0～14歳)

1,588.6万人 → 836万人

(12.6%)　(9.1%)

◆合計特殊出生率の仮定

(2017年)　(2065年)

1.43 → 1.36

※非婚化・晩婚化により合計特殊出生率は今後も劇的には回復しないことが予想される。

◆平均寿命の仮定

(2018年)　(2055年)

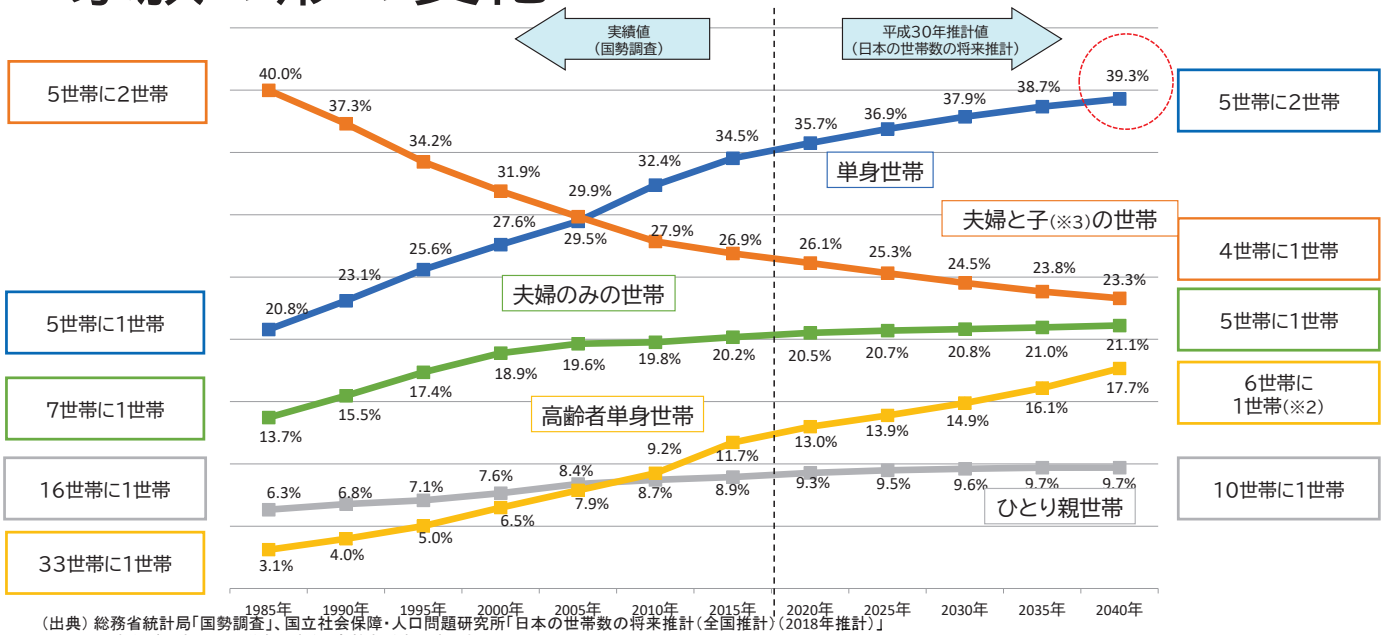
男 81.09歳 → 85.89歳

女 87.26歳 → 91.94歳

出所：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来人口推計」(2023年)の中位推計による。

家族の変化

家族の形の変化



(出典) 総務省統計局「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計（全国推計）（2018年推計）」

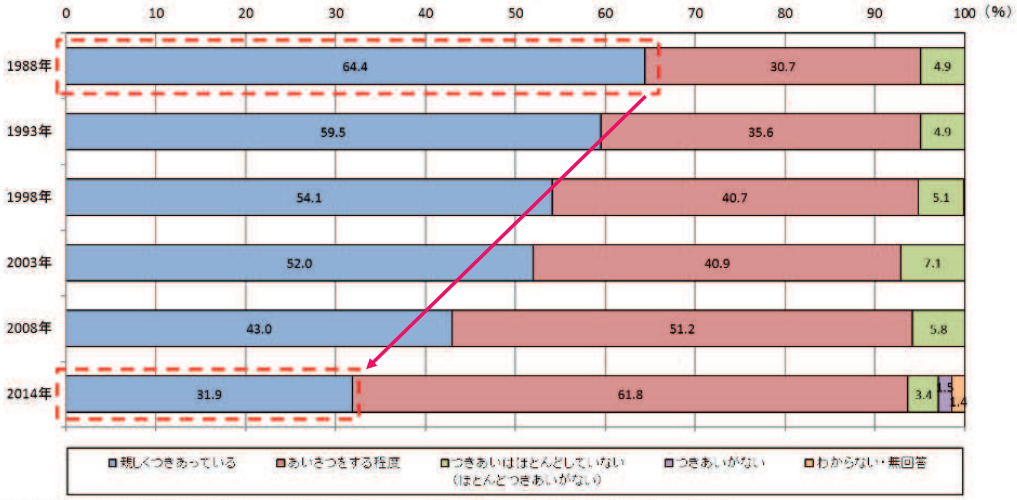
（※1）世帯主が65歳以上の単身世帯を、高齢者単身世帯とする。

（※2）全世帯数に対する高齢者単身世帯の割合はグラフのとおりだが、世帯主年齢65歳以上世帯に対する割合は、32.6%（2015年）から40.0%（2040年）へと上昇。

（※3）子については、年齢にかかわらず、世帯主との続き柄が「子」である者を指す。

高齢者の近隣とのつながりの変化

○ 60歳以上の男女を対象にした調査では、**近所の人たちと「親しくつきあっている」としている者の割合は1988年から2014年で半減**しており、**高齢世代の地域のつながりも希薄化する傾向**にあると考えられる。



資料：2008年以前：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」、2014年：内閣府「高齢者の日常生活に関する意識調査」
注1）対象は60歳以上の男女
注2）それぞれの調査における選択肢は以下のとおり。
高齢者の地域社会への参加に関する意識調査：「親しくつきあっている」、「あいさつをする程度」、「つきあいはほとんどしていない」
高齢者の日常生活に関する意識調査：「親しくつきあっている」、「あいさつをする程度」、「ほとんどつきあいがない」、「つきあいがない」、「わからない」、「無回答」

認知症の人の将来推計について

○ 長期の縦断的な認知症の有病率調査を行っている久山町研究のデータから、新たに推計した認知症の有病率（2025年）。

✓ 各年齢層の認知症有病率が、2012年以降一定と仮定した場合：18.5%。

✓ 各年齢層の認知症有病率が、2012年以降も糖尿病有病率の増加により上昇すると仮定した場合：20.0%。

※ 久山町研究からモデルを作成すると、年齢、性別、生活習慣病（糖尿病）の有病率が認知症の有病率に影響することがわかった。
本推計では2060年までに糖尿病有病率が20%増加すると仮定した。

○ 本推計の結果を、平成25年筑波大学発表の研究報告による2012年における認知症の有病者数462万人にあてはめた場合、2025年の認知症の有病者数は約700万人となる。

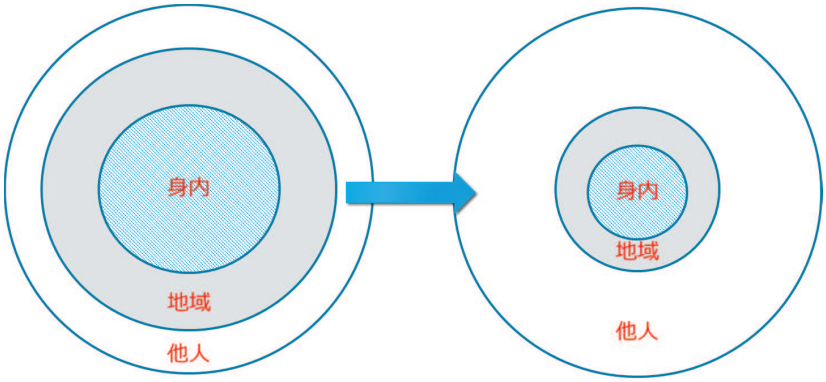
「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」（平成26年度厚生労働科学研究費補助金特別研究事業　九州大学　二宮教授）

年	2012年	2015年	2020年	2025年	2030年	2040年	2050年	2060年
各年齢の認知症有病率が一定の場合の将来推計 人数/(率)	462万人 15.0%	517万人 15.2%	602万人 16.7%	675万人 18.5%	744万人 20.2%	802万人 20.7%	797万人 21.1%	850万人 24.5%
各年齢の認知症有病率が上昇する場合の将来推計 人数/(率)		525万人 15.5%	631万人 17.5%	730万人 20.0%	830万人 22.5%	953万人 24.6%	1016万人 27.0%	1154万人 33.3%

頼れる人がいない人の増加

- 人口が高齢化し、単身者が増える一方で、**職住分離**が進み、地域のつながりも希薄化しています。⇒職住分離が進むと、地域とのつながりは、必須のものではなく選択的なものになる。親族ネットワークや地域とうまくつながれない「関係の貧困」（社会的孤立）は、「**孤立死**」に代表されるような様々な問題の原因になっていると考えられます。

〇家族の規模は縮小し、地域社会と関わりを持たない人が増加することで、いざというときに頼れる人がいない、助けてといえる人がいない人が増加する。



8050問題

- 相談できずに困窮したり、地域社会からも孤立している世帯が多い。
- ご近所や民生委員の気づき、高齢者の支援から課題が発見されることが多いが、中高年世代への支援策が少なく、「たらい回し」になってしまうこともある。

- 少子高齢化・人口減少社会
- 家族の変化
- 地域のつながりの希薄化
- 社会的孤立の深刻化と制度のはざまの課題

発想を転換して、地域社会の未来を考えます。

地域共生社会という未来

支えあう地域社会の未来の姿を考えます。

こうした課題を踏まえた**これからの福祉**

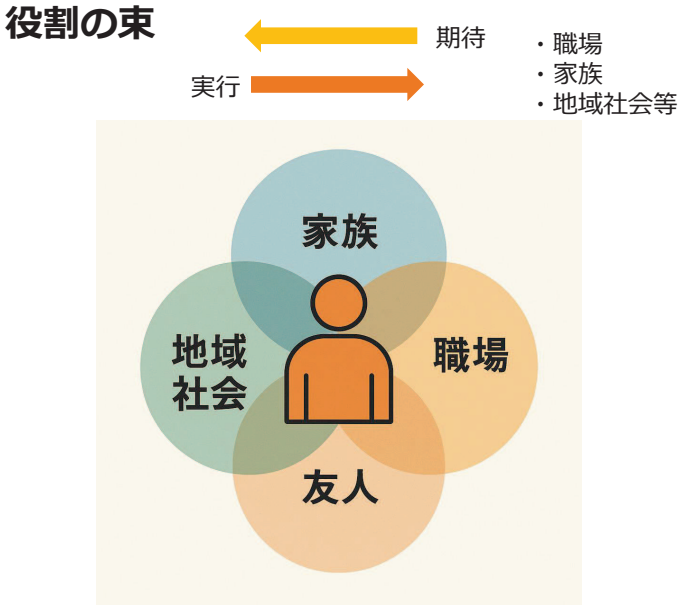
「地域共生社会」の実現

「制度・分野ごとの『縦割り』や『支え手』『受け手』という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会」（厚生労働省）

- →「支援が必要な人」と考えるのではなく、だれでも支援が必要な「時」があると考える。みんなに役割と出番、「立つ瀬」がある地域を創る、ということです。

社会孤立≒役割や出番の消失

- 私たちは、社会的存在で「**役割の束**」を生きています。
- 孤立した状態では、役割がなくなり、自分が認められる場がなくなってしまい、社会から必要とされているという感覚を持つことができません。
- →役割は、人との関係の中で生まれるので、人とのつながりをつくっていくことができないと、役割も消失します。



孤立と健康との関係

- 社会と多様なつながり方がある人は、認知症発症リスクが半減（国立長寿医療研究センター、10年間の追跡調査の結果）
- 横浜市立大学、地域での仲間づくりが10年以上続くと介護リスクが低下することを実証（日本経済新聞、2025/07/30）
- 要介護リスク　働くと減る　身体機能維持、多世代交流にも（読売新聞、2024/1/23）
- 高齢者要介護リスク　人付き合い週1未満1．4倍　死亡リスクも高まる（読売新聞、2015/4/22）
- 高齢者の健康維持、運動よりも「交流」（朝日新聞、2024/4/8）

なぜ、犬を飼っていると健康なのか

- 「猫より犬を飼うと健康になる？」（毎日新聞、2025/2/3）
- 犬の飼い主は、関連する社会人口統計学的、身体的、心理的、社会的要因を調整した後、ペットを飼っていない人と比べて、死亡リスクが有意に低いことが示されました。
- 猫、鳥、魚、その他のペットの所有は、死亡率との明確な関連は見られませんでした。これらのペットの飼い主も犬の飼い主と同様の社会人口統計学的特徴を持っていましたが、健康への影響は見られませんでした。
- →なぜ、犬を飼っている人が健康なのでしょうか？

きょうようときょういく

今日用（今日用がある）
⇒役割がある

今日行（今日行くところがある）
⇒居場所がある

多湖 輝「100歳になっても脳を元気に動かす習慣術 」（日文新書）2011年。

居場所と出番をどう作るか

- 孤立を防ぎ、人と交流できる居場所があって、役割をもって活躍できることが、あらゆる世代で重要になっています。
- 地域福祉活動（サロン、見守り、生活支援や移動支援）は、こうした「きょうようときょういく」を作り出してきました。
- しかし、人口減少や高齢化が進むなか、「担い手がいない・高齢化している」、「若い人が地域の活動に参加してくれない」といった悩みを聞くことが増えてきました。

- どうしたらよいでしょうか？

○○×福祉の発想

○デイサービスで仕事？（京都市）

○企業と連携して、デイサービスを利用する高齢者が、商品の製造工程の一部を担う。木製のまな板は、企業が仕入れ、加工されたものを利用者がやすりがけ、オイルがけなどの仕上げを担当。デイの中で「仕事の時間」が設けられており、出勤簿に押印して、仕事がスタート。

○社会福祉法人が団地でたこ焼きパーティ？（京都市）

○団地と近隣の社会福祉法人が協働で、空きスペースを地域の居場所として活用することに。場所を作っただけでは、人が集まらないので、定例で「たこ焼きパーティ」をして顔の見える関係作りから始めています。自治会長によると「人が集まると何かが起こる！」。

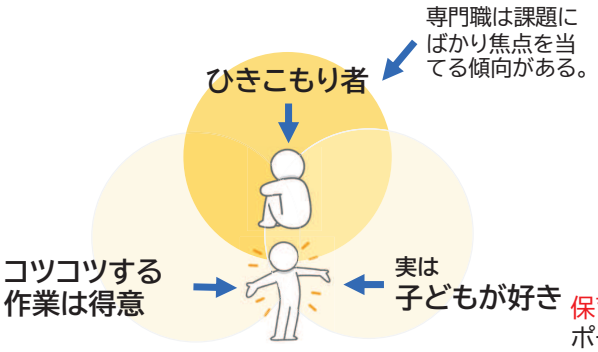
○社会福祉法人と移動支援（鹿児島県鹿屋市）

○社会福祉法人（デイサービス）の空いている時間の送迎車を使って、買い物支援。買い物よりも、車内でのおしゃべり（ドライブサロン）が楽しい、という利用者の声。

- 新しい地域づくりの仲間を広げるために、皆さんの周りに眠っている地域の「お宝」がないか、探してみてください。「地域を元気にしたい」と思っている仲間が必ずいるはずです。ケアプラザや社協は、多様な出会いを生み出す場や工夫を！

みんなが活躍できる地域福祉

- 課題の捉え直し＝「課題」に角度を変えてアプローチすること。
- 専門職の常識ではなく、本人の思いや、可能性を大切にする。



カフェの店主のつぶやき：「カフェで使う野菜の収穫がとても大変」

約10年自宅で過ごしている閉じこもりがちな若者（自宅で家庭菜園をしている）につぶやきを共有

「自分にできることなら」と引き受ける

隣の畑のおじさんも加わり、収穫方法を教えてくれる

保育園児の収穫体験のサポート役をすることに

保育園からのお礼の手紙があり、本人は嬉しそうに受け取られる。

実践報告①

安心して買い物できる！

～移動支援の中でICTを活用した見守り～

【神奈川区】

中丸買い物支援（移動支援）ネットワーク

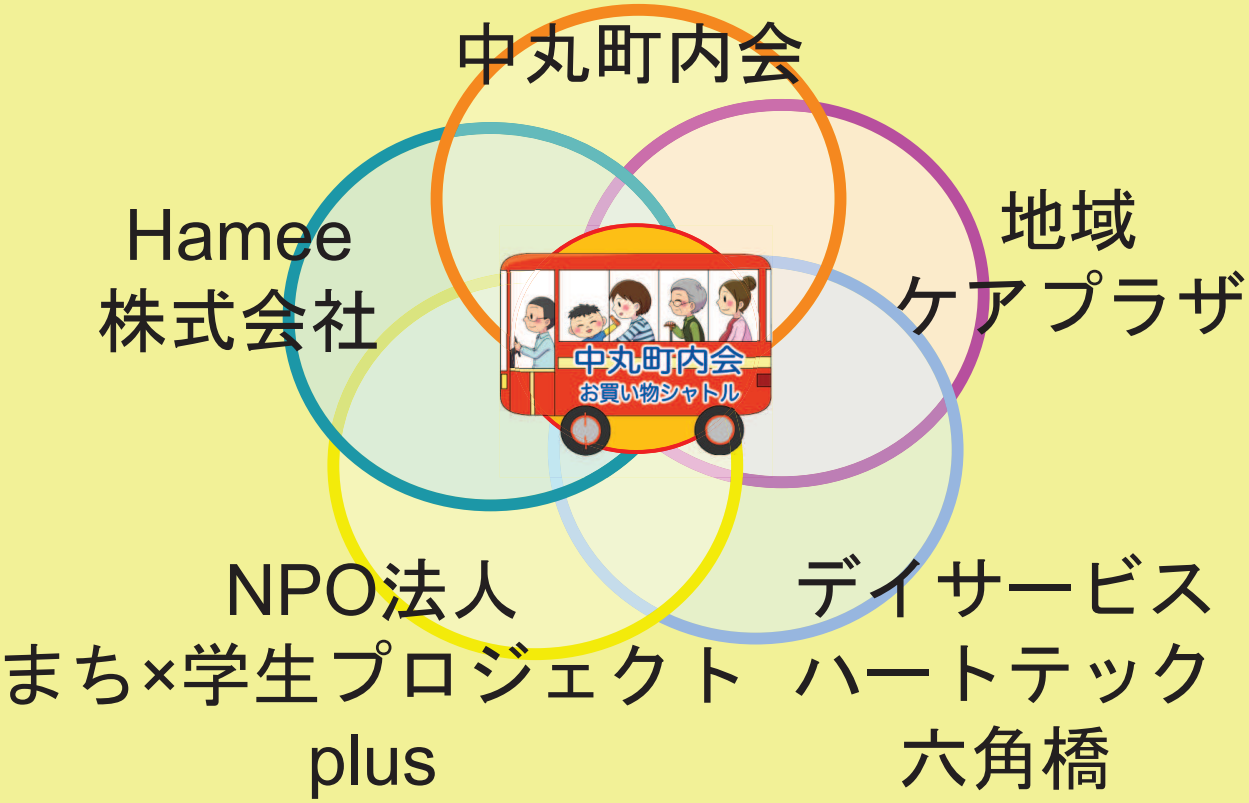
安心して買い物できる！

移動支援の中でＩＣＴを活用した見守り

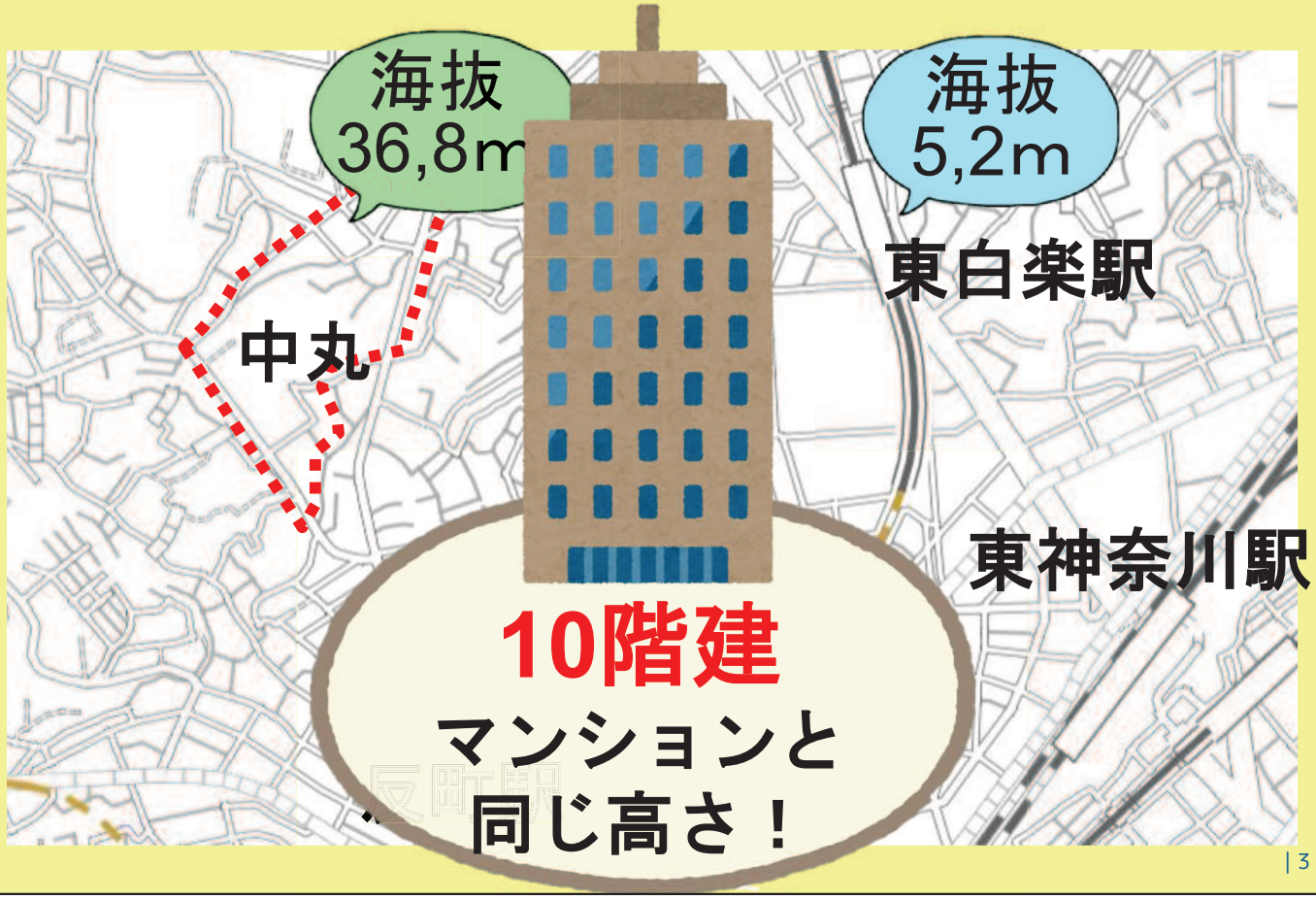
中丸町内会　島田恵
六角橋地域ケアプラザ　佐々木朝子
NPO法人まち×学生プロジェクトplus　原島隆行
Two Birds Consulting株式会社 代表取締役(元Hamee株式会社)下薗徹

2025/12/4

中丸買い物支援ネットワーク構成



地域の課題



お買い物シャトルの取組内容

- 運行方法
- 対象者

- 参加費

- 運営資金
- 保険加入

活動のきっかけ

〈2016

- 会長か

〈2019年

トラブル発生！

「（成功の保 泥 になるかも

しれないけど一緒に乗って下さい！」

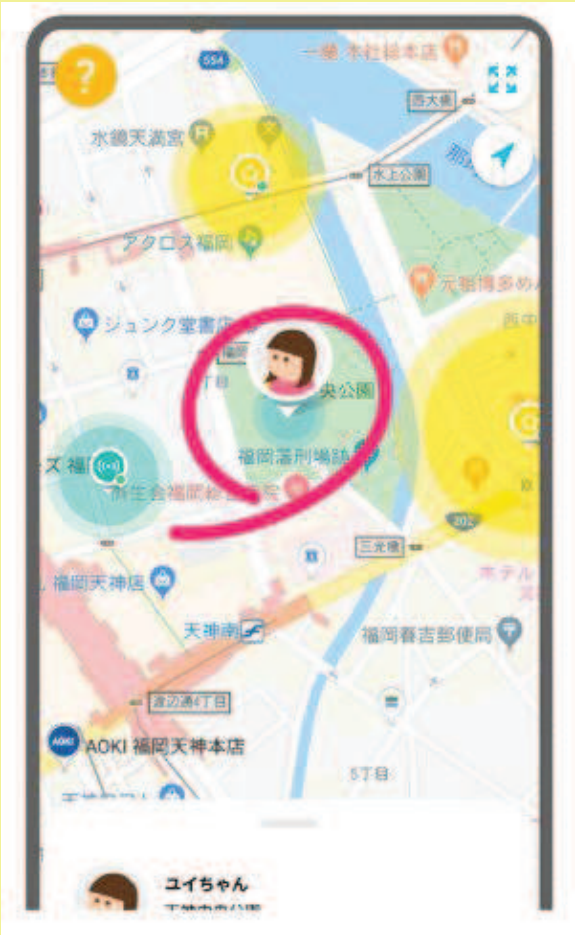
見守りの仕組みを試行錯誤（2019～）

企業との
「出会い」
マホ/タブレット

HamicMIELS
（キッズスマホ）

防犯ブザー
通知機能搭載

※SOSストラップ付



衛星やタクシーで
位置情報を把握

ICT導入！私たちの工夫

ICT機器の連携
（追加導入）

取組みの成果

月１回の買い物に行く楽しみを町内会と
多様な団体が協働し実現しています。

（そしてもう一つ）取組み

ご清聴ありがとうございました

実践報告②

障害がある人もない人も、
誰もが地域の一員に

【旭区】

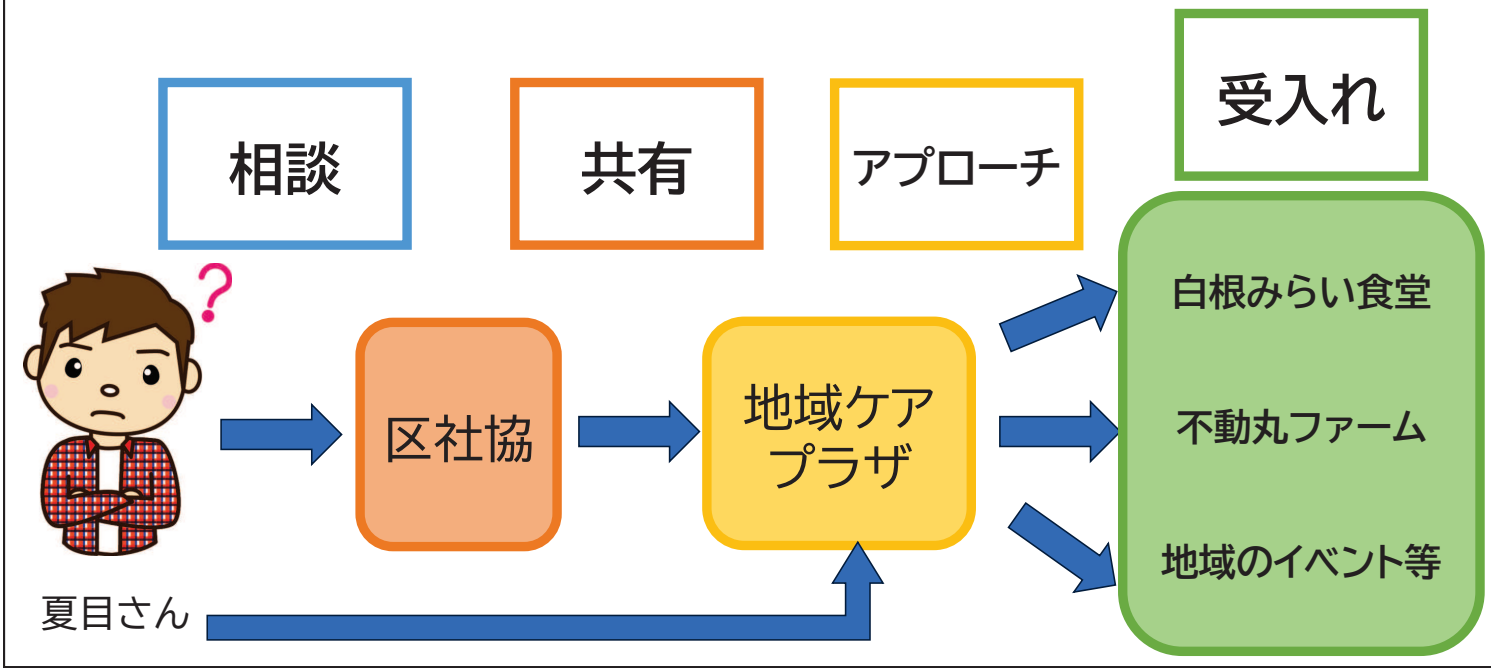
白根みらい食堂　／　不動丸ファーム

白根地域ケアプラザ　／　旭区社会福祉協議会

障害がある人もない人も、
誰もが地域の一員に

白根みらい食堂	代表	渡邊　敦子	白根地域ケアプラザ	所長	世良田　知美
	ボランティア代表	石川　良幸		生活支援コーディネーター	樋口　英里
不動丸ファーム	ボランティア	鈴木　実	旭区社会福祉協議会		杉山　遥
		夏目　悠輝			

今日のおはなし



白根地区紹介

・区の東部に位置し、丘陵地には住宅街、国道・白根通り沿いには商業施設が点在している。図書館や地区センターなど公共施設も充実。

・障害者施設が多く立地している。

・白根カーニバルや新春子供大会などのイベントや地域食堂など地域の活動が活発。

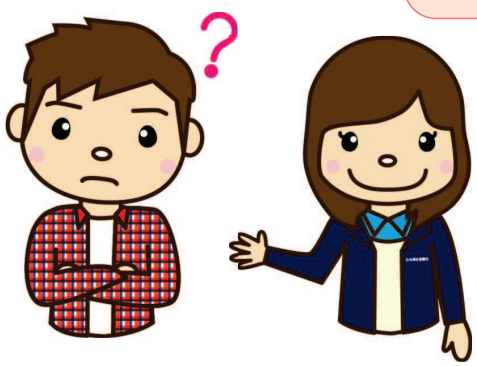
◇人口　14,853人
◇高齢化率　27.1%
（出典：令和6年9月「地区概況シート」健康福祉局作成）

きっかけ

ボランティアセンターに相談が…

障害についてみんなに知ってもらいたい、講演会をしたい

まずは地域のボランティアなどで仲間探しをしてみるのは？



ボランティアって何ができるの？

興味のあることや好きなことを活かした活動を紹介できます！

夏目さん

ボランティアセンター職員

コーディネート

地域ケアプラザへ相談！

区社協

地域でのボランティア活動を紹介したい方がいる、とケアプラザへ相談。

白根地域ケアプラザ

本人が地域ケアプラザへ来館し、相談を受けていることを区社協へ共有。
「ボランティア活動に興味がある」
⇒白根みらい食堂を紹介

まずは一緒に食べに行って、活動や雰囲気を見てみよう！

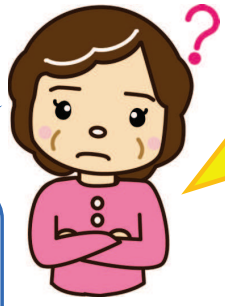
コーディネート

白根みらい食堂へ相談！

活動の受入れについて…

障害のある人もどんな方も
メンバーの一人として活動
してもらえるのは嬉しい

小学生のボランティアもいたり、
忙しい活動の中で受け入れるに
はどうしたらいいかしら・・・



みらい食堂代表
渡邊さん

**まずはみらい食堂の
メンバーに相談してみよう！**

活動メンバーみんなで考える！

・食堂後のミーティングで夏目さんの受入れについて相談

若くて力のある方に手伝ってもらえるのはみらい食堂にとっても助かる！

障害についての理解にもつながるし、まずは一緒に活動してみたい！

活　動

白根みらい食堂に参加！

みらい食堂の関わり

・障害がある人、としてではなく、**メンバーのひとりとして**自然と関わることができている
・小学生のボランティアも障害を理解しながら自然に接していた
・メンバー間で受け入れについて共有したことで、初日もスムーズに対応ができた
・活動の中で必要な役割を細かく分担して、**活動に参加しやすい環境**にしている

不動丸ファームでの活動

・誰もが「楽しく」ボランティア活動できるよう
メンバー募集は「だれでも」「飛び入り参加OK」
⇒認知症の方も障害のある方もメンバー
　不登校児童が飛び入り参加したことも

・年齢、体力、お身体の状態、畑の経験
は人それぞれ
⇒メンバー各自ができるときに、
できる作業を行えばOK

活　動

不動丸ファームに参加！

不動丸ファームの関わり

・**だれでも参加できる**し、だれもが活躍できる場所
・個性として捉え、それぞれその人に合った声かけ
・**特別扱いはしない。**ダメな時はダメと伝える
・得意なことを活かして活動できる役割分担
・お互いに「ありがとう」「いつも助かるよ」の声かけ

夏目さんにインタビュー!
～地域活動をはじめてみて～

地域活動をはじめてみて

・自分の役割を持っている、頼られていると感じられる

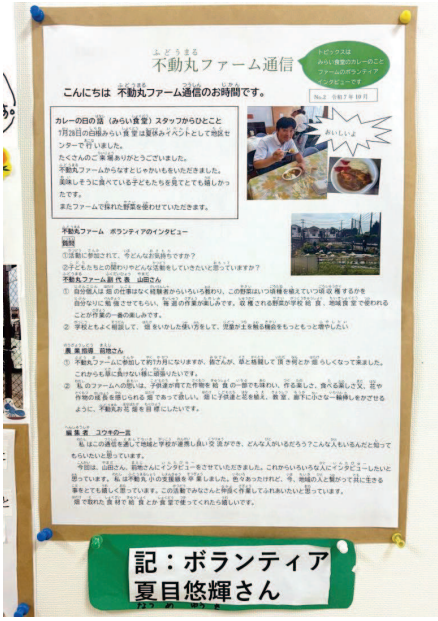
・「自分のことを受け入れてくれている」「理解されている」
　⇒帰ってくると安心できる居場所になっている

・白根で活動しているときには感じないが、
　他のまちに行くと障害の差別が気になる部分がある
　⇒周囲のやさしさや接し方が活動のしやすさにつながっている

地域での活動から約1年…

↑子どもの居場所連絡会にみらい食堂を代表して出席！

不動丸ファーム通信を自ら希望して作成→



まとめ①～支援者の関わり～

- 本人の想い、意欲、できることは？本人とコミュニケーション大切に
  ⇒ケアプラザ職員で共有、本人が地域で活躍できることは？
- 本人の次の一歩を後押しするサポート
- 自分でできることは自分で対応するような提案、促す、励ます
- 専門機関につながるべきことは、本人へ提案

まとめ②～地域の関わり～

・どんな人でもまずは話を聞いて、**その人自身を「知る」**

・得意なこと、できることを活かす、個性にあわせた役割分担
⇒周囲がその人の存在や能力を**認める**ことで、安心感や自信につながる

・「特別」に接するのではなく、**地域の担い手の一員として**の活動が信頼関係につながった。